洪水・土砂災害への備え

避難の仕方

立退き避難（水平避難）

危険な場所から立退き、近隣の少しでも安全な場所や避難場所に避難することです。

屋内安全確保（垂直避難）

浸水深より居室が高く、家屋倒壊等氾濫想定区域外にお住まいで、十分な備蓄品がある場合は、建物の2階以上に避難する（屋内安全確保）ことも可能です。

※家屋倒壊等氾濫想定区域についてはp.9、p.38～41をご覧ください。

様々な避難先

市指定の避難所への避難

安全な親せき、知人宅への避難

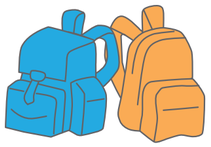
安全な宿泊施設への避難

安全な場所に移動して車中泊

避難の心得

服装や所持品

服装は身軽で目立つものにしましょう。



荷物は少なく。リュックなどを使ってできるだけ両手をあけましょう。

スニーカーなどの履きなれた靴で避難しましょう。長靴は、水が入って歩きにくくなることがあります。

避難経路にある危険

水の中を歩く時は、側溝やフタの外れたマンホールなどに注意し、棒などで安全を確かめながら歩きましょう。

がけなどの近くを通る時は、がけ崩れなどに注意し、がけからできるだけ離れて歩きましょう。

避難の際は、できるだけ河川の近くやアンダーパスを避けて避難しましょう。

歩いて避難できる深さは、ひざ下程度といわれています。ただし、流れによっては足をすくわれる危険性があります。

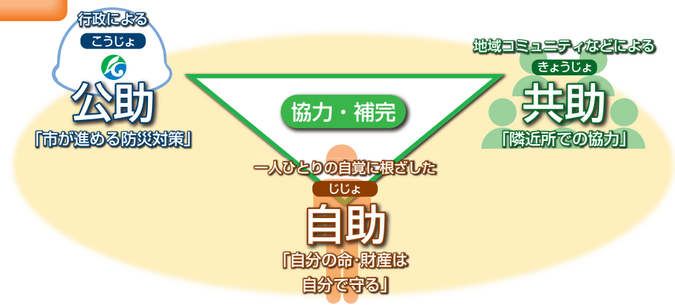
夜間の避難は、周りの状況が確認しにくく、非常に危険です。可能な限り暗くなる前に避難しましょう。

日頃からの備えが大切です

災害による被害を最小限にするには、日頃からの備えがかかせません。自分と大切な人の命を守るため、普段できることから準備しておきましょう。

自助・共助・公助

防災力の向上には、自分の命は自分で守る「自助」、地域で協力し合う「共助」、行政が取り組む「公助」が互いに補完し合う必要があります。



身の回りの確認

ハザードマップなどを確認し、自宅やよく行く場所の周辺にある災害の危険性を知りましょう。

▷ハザードマップはp.11～41をご覧ください。

避難場所、避難経路の確認

自宅の最寄りの避難場所に印をつけ、避難場所までの避難経路を確認しましょう。

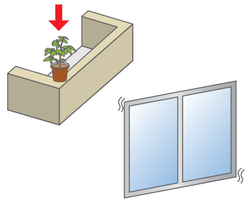
▷避難場所等の一覧はp.69～71をご覧ください。

非常持出品・備蓄品の準備

災害時は支援物資がすぐには届きません。非常持出品、備蓄品の準備をしておきましょう。

▷非常持出品、備蓄品のチェックリストはp.74をご覧ください。

自宅周りの点検



大雨や台風に備えて、自宅の窓にがたつきがないか、鉢植えなど落下や飛散の可能性がある物がないかを確認しましょう。

▷点検項目はp.50の屋外の安全対策をご覧ください。

地域の自主防災活動、避難訓練への参加

いざという時、地域の人と協力し合うことで災害による被害を減らすことができます。
自主防災組織や避難訓練に参加し、日頃から備えておきましょう。

▷自分の地域の自主防災組織について知りたい方は、久慈市防災危機管理課へお問い合わせください。